

ゴミ舞わない熱風炉

中外炉工業は有機ELパネルの生産で用いる基板に塗布したポリイミド樹脂の乾燥炉を開発した。乾燥工程で熱風を出して乾かす際、歩留まり低下の要因となるゴミが発生しないような独自構造を施した。従来の乾燥工程で使われることの多い遠赤外線方式の電気炉に比べてランニングコストを半減できる利点がある。



中外炉工業、有機EL向け

基板乾燥コスト 電気式の半分に

中外炉工業が開発したのは「クリーンオープン」と呼ぶ乾燥炉。炉内でゴミを除去する特殊フィルターを独自開発した。さらに炉の構造も見直し、熱風式乾燥炉の弱点となるゴミが出ないようにしている。

クリーンオープンの価格は仕様によって異なるが、8000万円程度（消費税抜き）を

開発したクリーンオープン

程度必要な電気炉に対してクリーンオープンが6〜7台で済む。有機ELパネルの生産ではガラス基板へのポリイミド樹脂の塗工・乾燥の工程がある。乾燥はゴミが出ないよう電気炉を使う場合が多い。ただ、電気炉の価格は1億〜1億2000万円程度で電気乾燥炉は電気炉に比べ

ランニングコストは約半分で済むとみている。同社は有機EL基板の乾燥工程での採用を見据え、新製品の提案活動を本格化する。今後5年間に国内外で120台程度の採用を目指す。一方、開発した乾燥炉は汎用性があり、食品や医薬などの分野でも応用可能とみ